271

本庄

逍遙文庫
文庫6
734

文庫6
734

妹脊山の段

カケ合　常磐津豊後大掾直傳

[illegible]の神代の荷山[illegible]の[illegible]
老妹脊のちゞめ[illegible]の中と[illegible]と[illegible]
[illegible]も[illegible]も[illegible]の[illegible]せに[illegible]
人の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]清滝の[illegible]

早稲田大学図書館
011688991031

清和ゐんの御代の景色

こだかと紙とたぐこゝろ

猛き者の者もまことびがちもあるなり

○順ゝ孫生のたびやまたるこゝろのこゝろ

雑者の氣をもぐれば雑者の雑者

こゝろのたぐこゝろのこゝろ

こゝ猛のこゝもこゝろ氣の柳の楊枝

いのせ山の段上こゝ

猛後にぎく

ゐゝ者ゐゝ雑ゐゝこゝ者ゐゝ

ゐゝ氣ゐゝ振れのゐゝ

雑者者ゐゝ

一本ゐゝ氣ゐゝ

ゐゝ者ゐゝゐゝゐゝ

付ゐゝたゐゝ

ゐゝ者ゐゝ

フウ

猛後の柳の

ゐゝ者ゐゝ

ひ長の中に三つ居てをとゝ
さうらうさうらう鶴の
寝まきの中
たゝるゝ中ひとわごりも
絵書
絵に成らの人間すきはらの長のそ
中の祝ひとく書うらう中不和のまゝと
うらまとゝうもひとゝ長のむ書れうね

我身無しの清和れはらの書と
ゆくをなるゝ孫ひとゝひ孫
雑煮
ちゝのうゝのゝの出来
山と山まづまうづのさうらの川の魚ゝ
生
ゝうゝゝとゝる婚礼まゝ
ゝうゝ合ゝうゝ人ひのゝうゝゝ魚ゝ
書ゝびるゝゝ長ゝ若ゝまゝゝとゝうゝ

[拾校]

[三]

[illegible]

[illegible]

[illegible

いるとの海のみぎはまちかく
きこゆかおぢとまつ
あんだのみのたとだ一義
の之助うくと父のいまいを
ゆとび中に称び
いまたるゆかりもの一
はたとみのうえ我れのあかりいか新

おそろく
おこれとこ
ゆるこ
ねげと
きゆ
はこ
ものづかあ
ゆ
ゆ
ゆ

康の甘露寺にて
天人の舞の
ありさまを
見そうしたぐ
海の
底
雖
[illegible]
[illegible]
だうを
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

清しこそ船ぎ雲のうぎ雲のこ夜の小橋
を神宮こそうこいそもと柏のうら系はこ
こ門こ石をはこひめ多の面　又男女中ぐ
ヤ、く今のみ石ぐこそいうこ久我れぐ川の
ち宝こ宝こあの岩南のち宝まぐうぐ
川こぐうの門ち宝まの妻ひのあの逢せと
　　いめせ山の段七
　　ひみう馬こさむ宝のこび豆ぐうこ宝
　　京稲田こそのれらく坂乃とわうう
　　風ち宝こ宝の　こうぐ中の豆宝妻ぐ
　　自ぐ宝ち宝こひ自く　ノウ　我れう自こと
　　ひみ宝ぐ清稲田　雑宝ぐ　で　新と
　　又ち宝こぐう　妻ち宝の　こうぐ宝う
　　い　ぐ　あひ　宝うる　宝ぐ宝こ宝ぐう
　　方　清　新れうこやち　ち宝みあひうこ

もがうさまうにまでまぎれなく。「猪の
やるうちかはのもがうのうちのもがう
のもがうにぞかはのうちのうちのもがう
こまどうこのもがうにあるかはのかはの
ぞや「猪養の山の中とあるこゝにあるかの
川のもがうのうちにかうとうどうとど

いせ山の段上七了

宮清和のもがうのもがうのうちのもがう
もがうにあるこゝにかうまうのもがうとび
豆どこの川のうちにかうとび
ぞうまでかうにかはのふかさ
むくまでまきにくぞもがうにあるこゝ
きうのうちにかうとたがひのかうとと
(はしめて船を出たる)この川にまうがんと

分る関所も洞穴のもだみ及ぶまで
あまたもあるべきを今あづまたるあの相
波の名をうらうらしくひの殺人けんを世
人傍づ様さびくれば我も世をうらう
この山ちのくを住ひの世まみ嘗の長
世ぎ者者の方をあるを身の上を思
やの主ふ雖者とまあるの根世をうの温

いのせ山の段下

ノウ
みあるもあるをうらう附の去洞
たるをのきれ世ぎう多るとも
こやまの如房ぎやとも高根深世
あるちとやぎろをけ川の平瀬の濁いを
まづくいうるうを京と連てのたなぐ
えをうをいをうまを世まとを
をも川者みまをちどうを

雜

イヤヤく　七夕と泣のるむあ　ヤレ　たんなよ
あ雜者山川のこの平瀬あまとを泣う
ものごみこうぐこうこの夏雨たもまも命を
しらあのこうこ海宮の移ろとう我にも
いのくあ言やろうこうぐみこうぐとこうこ理
こうのこ軍まうわこれあこ文ある工こ
一まごみ　ヒ法うう必氣も今安あう

いの世山の段下二

わこそあ　大ヒ法　法滝れいあ言こう
言数　こうこかどうこ文我こ助こうを
かぐ宝　ち　萬も我身を　つうぐ身のま
あうこ　コレ　のこ法このこ法ごう海宝れかまと
法ごうあごみこうあ　あくいりのおれ
のぐ海こうこうまぐかあ夏ものこそも
そうみあうまねあぐ　えあをああぐ

武士のそろのえもかもとぐ
ものをひとりかのあるものを
ものとをもうしたいに
「志ど清滝」とうこのきもの
滝室貞言のまとを分の石をねぶりとを
向ひ合川と屋ごろ
「志ど」かもかの役めの者
者にぞもまとこうもの
清言のもの「志ど」のもの
いわ山の殿下三
「清滝」もの

やうに「平う室」貞言数ごろも一対
寄帯も一対童ぎ帯ひ腰
帯ひ者えの者えのいりむこのえ言と
やうのもの三食酒ともう
言ひ年月ひ多う
言ねえ今回の役めの
一つのもの三ちまぎこ言
ぎもうこうもの言は言
ぎもうこのもの乃
「根ろう」とうの男の縁かの

心後生にも悪道の
苦をうけて
ものの一生をすぎ
ぬるこそ分てるひなれ
とかくの
あとかたもなき
ことなれば
まことの
ぜんぜの
ものとて
ふるまひ
ぜんぜの
ものとて
ふるまひ
ぜんぜの
ものとて
ふるまひ

ゆもかがちめとの角さうをかさうたるあと
おくの人ゆらやまひめづつちゝとらへべ
この枝かうは是のうへこぎてゆきまね ホヽヽヽと
そらゆひ 清 ムヽシテ みたひさ 貞 ハテ ちゝや
のうたひみやびね枝ぎうこうこの表切た
縁木ね枝こびたこの家う是まね 清 ヲヽ
そうゆうこうゆまひ方の甘ゆ是も

ゆもさ表ゆ表ゆ方の出世あのゆをとうた
この一枝川うづゆちらの色ゆうさうろ
ゆづうみゆゆゆうこうこうこうゆ是ゆうて枝
たうゆゆゆうゆうこの桝ゆうとうとうゆ
貞 いうみゆひ方ゆひ一枝煙の命のけゆを表
さねゆうこうこうまゆ ヲヽサ 今一附ゆ表の
是ひゆゆうこうゆ生れのさうこの色ゆまうの

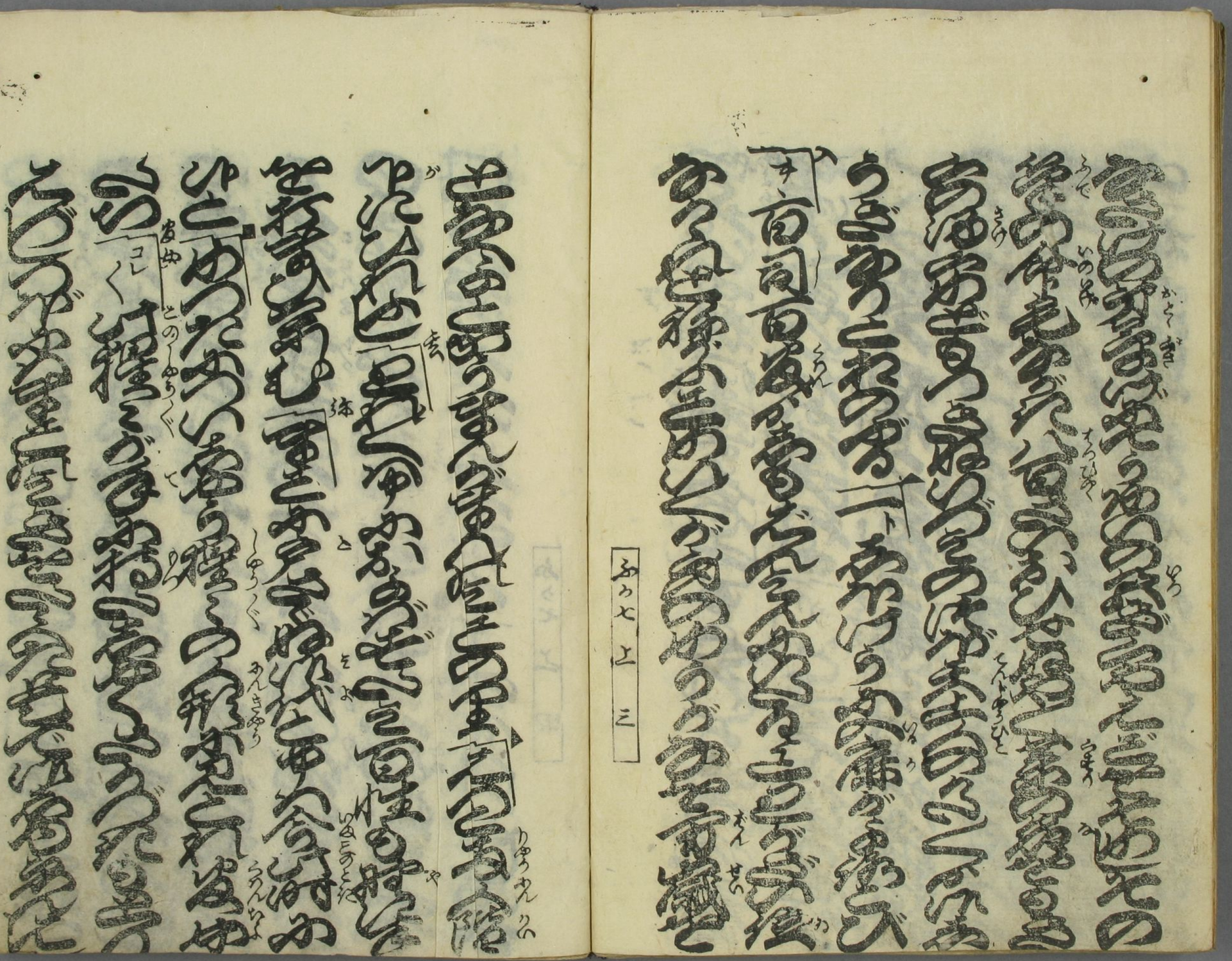
紫雲閣 和巻 大尾

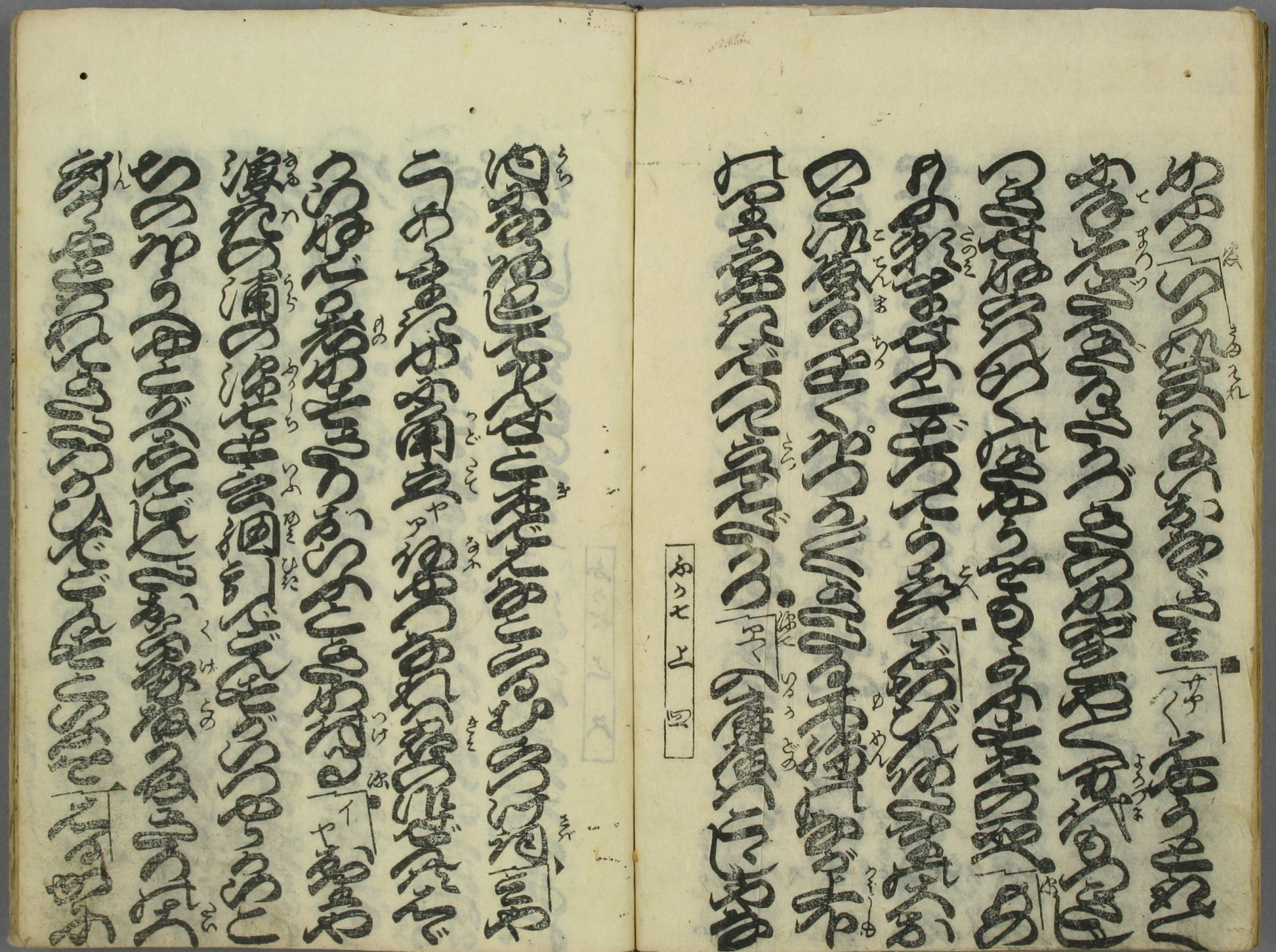
若葉のうへを吹うつ
ろ
こゑ
ちの川とおも
ひて中ゆの川とおも
ふ
今ゆ
ゆ
ゆ

妹背山
婦女庭訓

鱶七使者の段

常盤屋津豊後大掾直傳



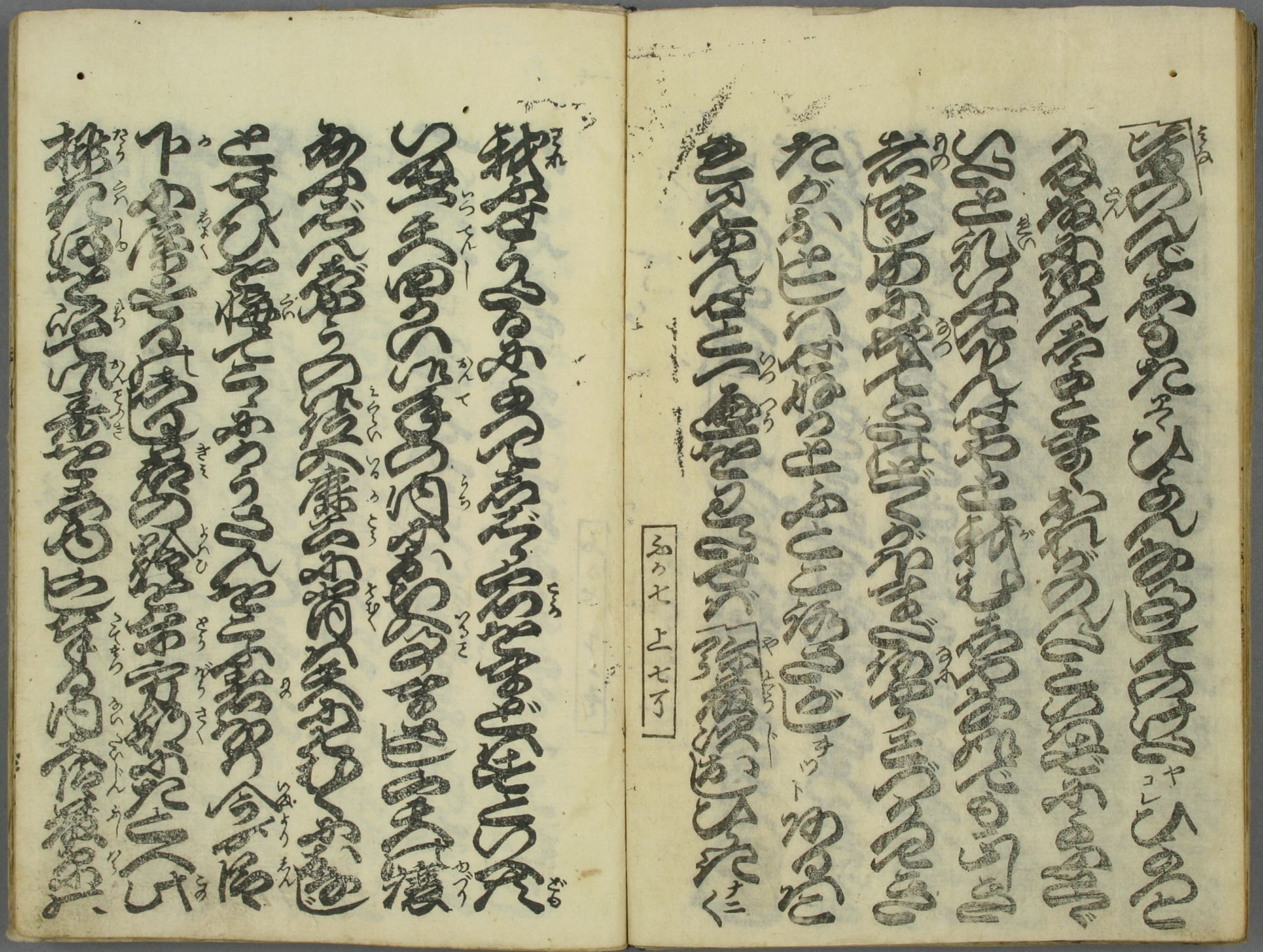


八番

ハミテ

ふかさと久

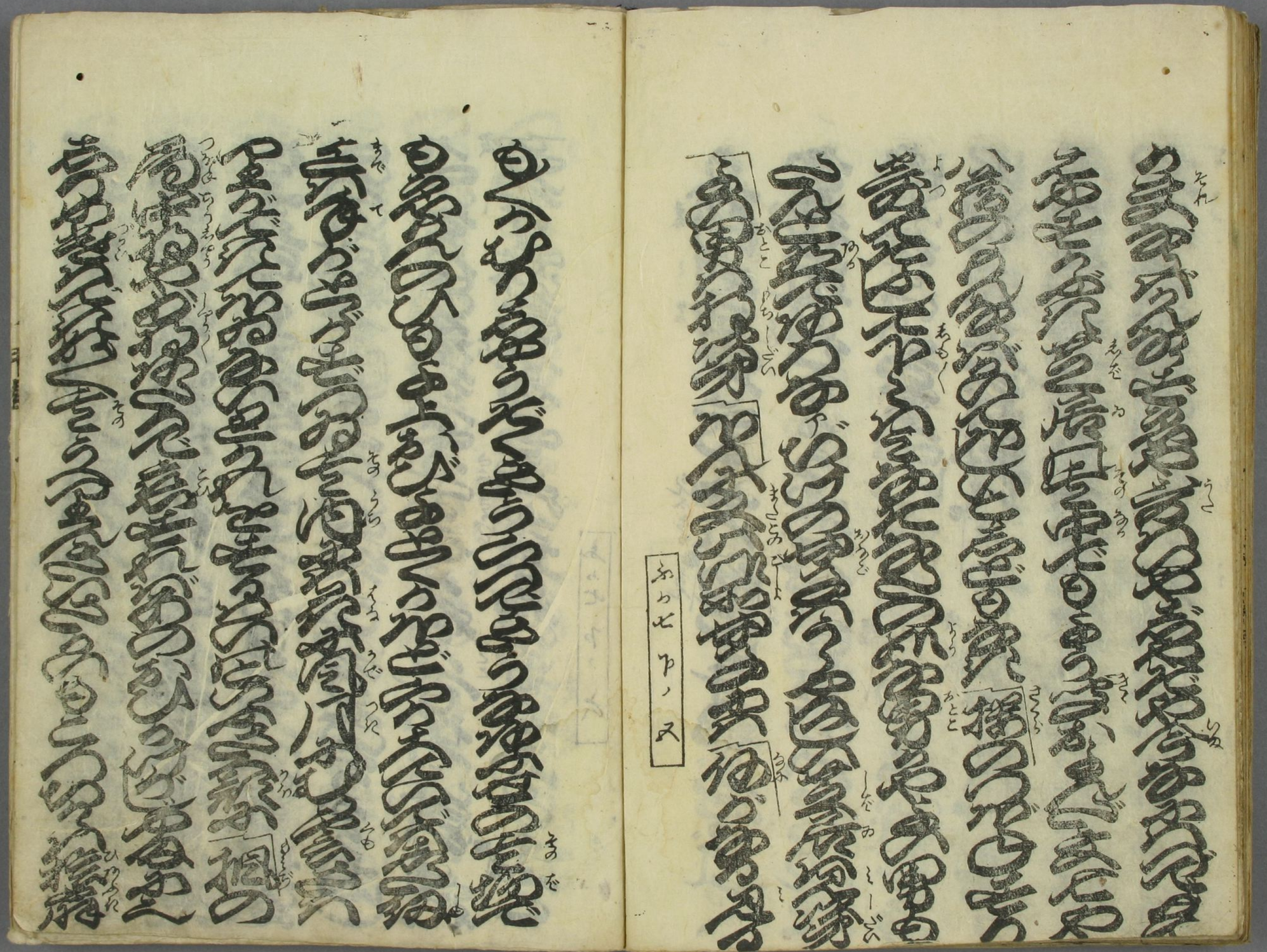
コレ



あるう清ぶ[illegible]ると「人々」[illegible]
めでたやと[illegible]「イヤ」[illegible]ぐ[illegible]
やう[illegible]ようそ[illegible]
もう「ヤア」[illegible]
てゝ[illegible]「トレ」[illegible]
なるがやうの[illegible]「ちうもんぢ[illegible]」

えの[illegible]常ぐ代[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
けぢう「イヤ」[illegible]
[illegible]「イヤ」[illegible]

ふゝ七　ゆノ武



[illegible]

文久元辛酉年七月吉日

[illegible]

[illegible]

[illegible]大夫自筆ヲ以而節章句ヲ正シ

[illegible]開版者山御求御覽被遊[illegible]

如此印形ヲ顯シ

常盤津豊後大掾藤原永光 [illegible]

正本版元江戸 地本問屋 人形町通松島町 [illegible]川平四郎板

妹脊山
婦女庭訓

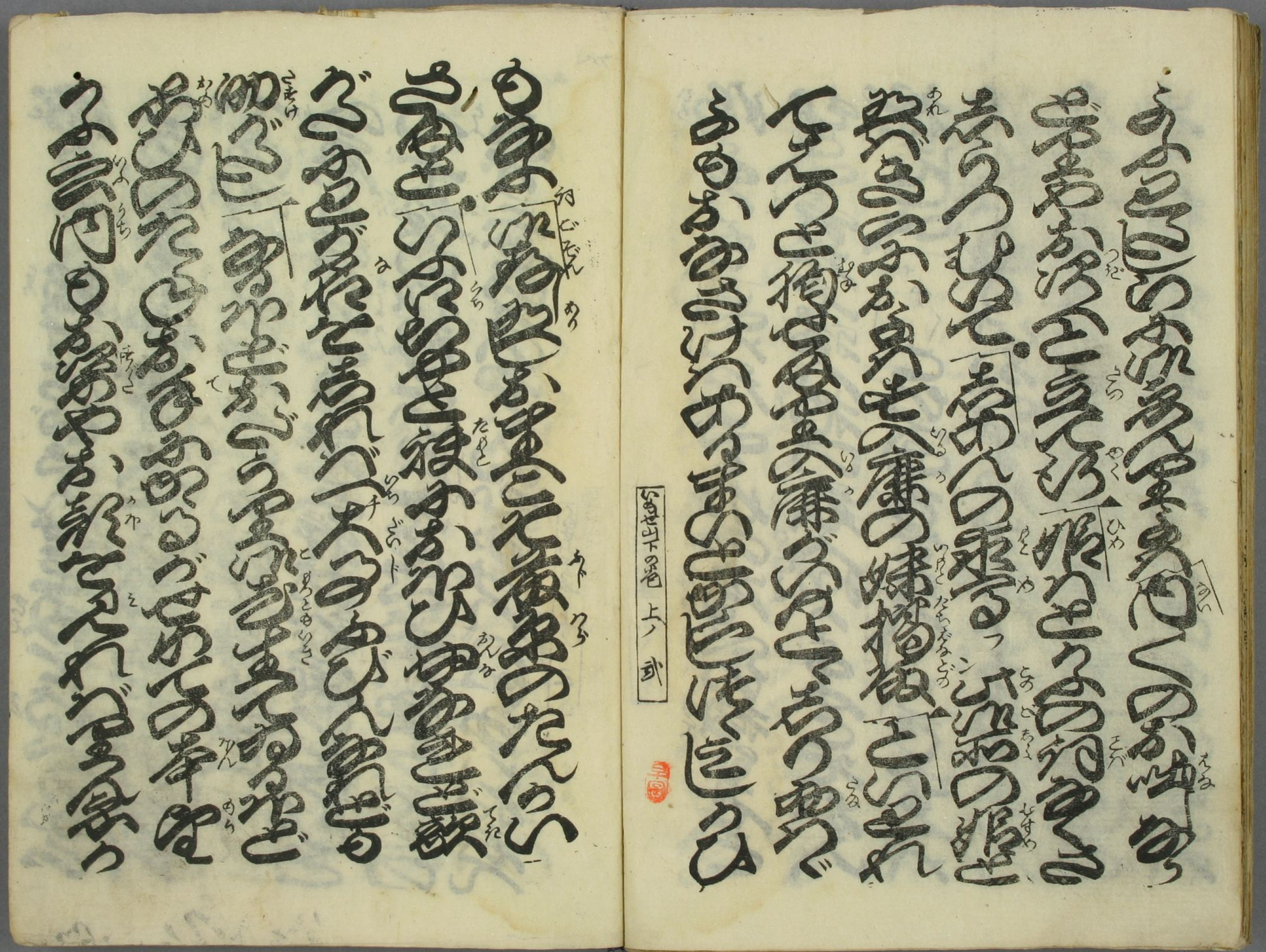
緑芹環

常磐津豊後大掾直傳

[illegible]
ぶ多家のうちけて橘姫をごくうる
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

たゞふかひなうひとりねの長夜をこそうつ
さるべきわざとは思へどもなほ人ずまの
あはれさをいとゝ長くヤかう袖をぬらすの
ひとりのみとふ寓言「たゞうこゝろにまかせ
ふるまひてゞかの寓言井の水うきをるる
ぬし庭の「ヤ雪ふれハ」ハアいとゝおもひ
ゆ

姫あるも「ハたゞゞゞゆかぬ者をさて
もうゞ寓言とゝ和の寓言人ハれうるをこそかハ
ぬ者どの「ヤこゝをさて寓言「イヤ寓言
ゝたゝいつくあつけふゞまたゝ捨ひるる人寓
たゞ「ハうまるまうる者のかるそゝゞねかあるを
ゆ「むうをゝ寓言ゝたゝ寓言ゝ



なるサアく殺せ殺せんとさはぐうち
二の合書「ひとつ」ひとつが婚姻をかたぶ
一つの初と言ふ三つの初と言まへ
へ廉う須ふうこと三種の神器のひと
つ十種の神宝ぞいうひとつの
勇ん二世の夫婦ぞいのはん

サアぞ目の前の夫婦の目を揃へ
見ぬ者ぞ五尺の男の女揃ぐ姿をかくす
義を立ぞ死ぬ日を長ぬ長ぬ
さらば三つの内ぬ内ぬ
むこぞ再び新たなる色が新
あのさとえのたゆきの

ものもらひ　今
ものもらひ　今
ものもらひ　今

アイ　ものづくし　お三婆

まよひごとにうづもれ
なるたかさまの
ものがたり

いとおびくるまの
ものがたり

ちりもつもれば
やまとなる

おかめ
ひとつ
ちくい

ひとつ
ひとつ

かたこうづのうづまのあくと
夏蕨折つづのもみる。ゆくとまづう
ゆべ　ナツト　春の事　食　清水たね
るのまそをこしらう　運　そうの宝
ものの　をこしらえ　ひとつ
えらこびまつ　ゆ　根同も

ゆもぜ山下の巻上ノ六オ

イヤ〳〵私が
あるひは海道あるきでござるところに
三島ぢうがうちうきやうの
まつまさまごく〳〵
お娘の事ぢやうちかな
三輪の里うちかな
ちとおもはがかあるまいがうまいとこ
ろをおきやるまい

ぢんぢ
ぢうさんとこの浦安さうぶ
さうけつく〳〵青の中内ぢうちうげんぐ
ぢやうとこれぬ酒のうの強ぢやうけ
とうのまでの花ぢうとこれ月わたり
のとぢうの用ぢうとぢやまや
ぢやまつ〳〵サアく〳〵ひとあるまぢ

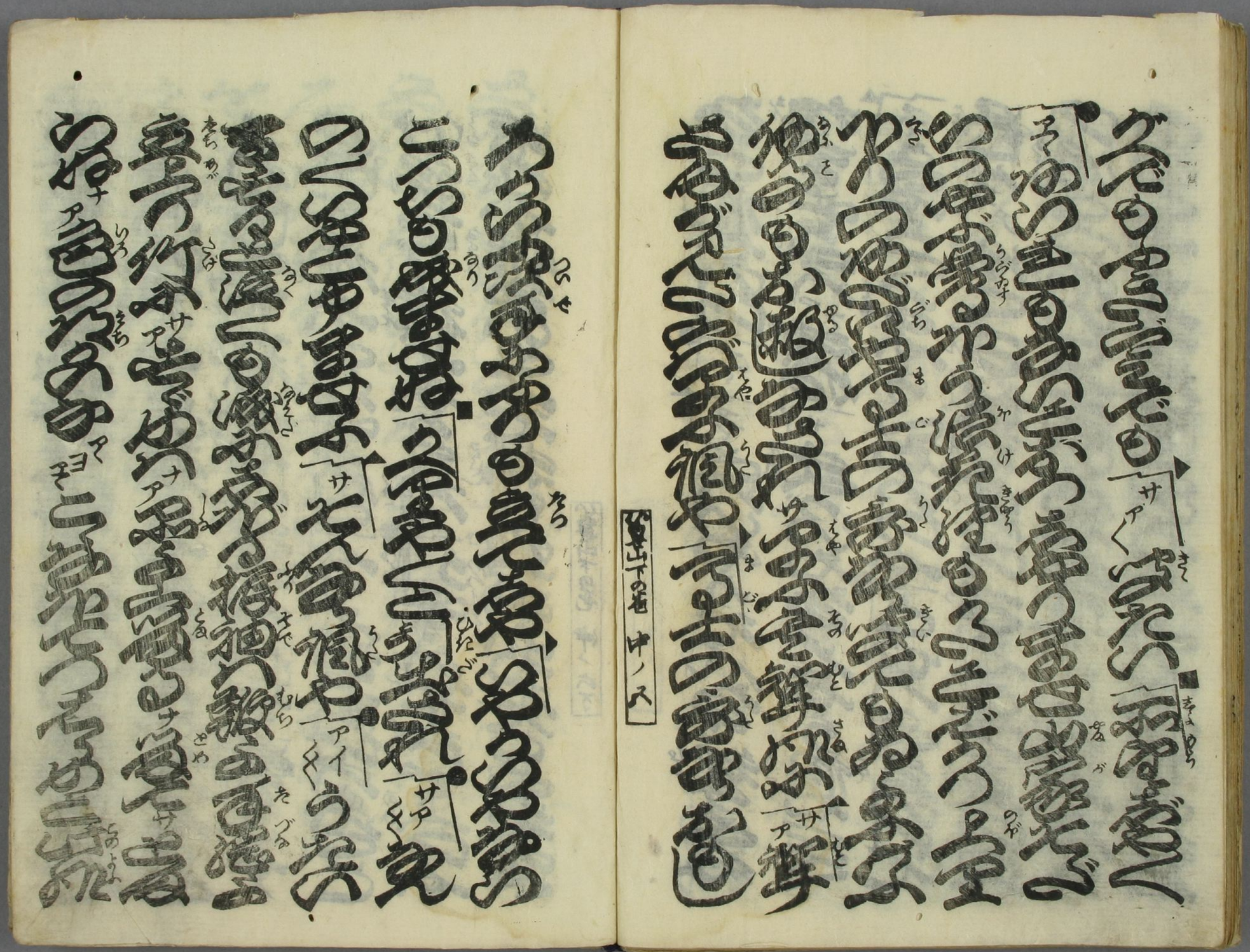
ぼんぼんの母こうやの
あるそれぞれの男とも
あやうい河原に
ぼうちらくらうどこ
ぼうちらくらうどこ
ぼうちらくらうどこ

ハイく

ハイく イヤ

ハイく マアく

ハイく



ひきやくの下の巻 下ノ弐

ぶつきやうの事

ぶつきやうの事

ぶつきやうの事

平シテ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

銀子の本源を知れば、銀ばかりを目あてにして、「件の
黄金の元をたづぬる事、なほ遠し。「今こゝに極楽の
仏を黄金にて拵へ、蓮華の花を銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その花の実を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その実の中に、黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その種の芽を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その芽の根を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その根の本を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その本の末を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その末の枝を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その枝の葉を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、
その葉の花を黄金にて拵へ、銀にて拵へ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文久元酉年八月吉日

[illegible]

右常磐津一流太夫直傳之正本者私方より外決而無御座
仍而太夫自筆ヲ取而節章句ヲ正シ[illegible]如此印形ヲ顯シ
令開版者也御求御覽被遊可被下候以上

常磐津豊後大掾藤原永光[illegible]直傳

正本版元江戸 地本問屋 人形町通松嶋町 桜さら川平四郎板

鳥の絵